

経済振興策を推進していく必要があります。そのような中、6月11日、「中核機能支援施設」の開所記念祝賀会が挙行される州崎地区の「沖縄IT津梁パーク」は、8千人の雇用が見込まれ、内外から注目を浴びており、本市の失業率改善にも大きく寄与するものと期待しております。

市としても、IT津梁パークを核とした中城湾港新港地区への企業誘致を支援し、流通拠点地域の確立に向け取り組みとともに、企業立地・雇用促進体制の強化を図ることにより、県内3番目の人口を抱える都市にふさわしい活気ある街をつくりたいと考えています。



6月11日に開所した沖縄IT津梁パーク

第2の目標は、「教育・子育て支援の拡大」であります。

本市は、平成21年4月1日現在127名の待機児童がおりますが、全国的に少子化の傾向にあり、本市も例外ではありません。私は、子育て支援の立場から保育現場のニーズに応えるため、保育園の認可化の促進のほか、子育て不安の解消を図るため、社団法人「日本小児科学会」が配信する「こどもの救急ホームページ」へ本市ホームページからもアクセス出来るようにし、子どもの体調管理に役立つ、子育て支援のための情報提供を6月4日から24時間体制でスタートしています。

また、本市の財政状況や将来の保育児童数の推移を勘案しながら、「子育て応援基金」を創設し、子育て家庭をバックアップしていきたいと考えています。

第3の目標は、「地元企業育成と誘致、そして地産地消」であります。地元企業育成のためには、公共事業における市内本企業業の優先活用と市長就任後の入札から実施していただきます公共事業の最低制限価格の引き上げにより、企業の安定経営や育成を図ってきたいと考えています。

また、IT津梁パーク関連事業や沖縄科学技術大学院大学関連事業等、国・県との連携による取り組みは、地元企業の育成と併せて、雇用の促進、経済

の活性化に寄与するものと考えています。

さらに、農・畜・水産業の自給率の向上と商工業・サービス業などの地域産業の底上げを図り、闘牛・エイサー！勝連城跡などの市独自の伝統文化や歴史遺産を活用した観光産業の構築を図り、総合的に連携し取り組むことにより、地域の活性化及び地産地消を含めたマーケティングの拡大に結びつくものと考えています。



世界遺産 勝連城跡

以上、私の掲げました3つの目標を基本に市民の負託に応えるべく、職員とともに取り組んでいきたいと考えておりますので、どうかご理解・ご協力をお願い申し上げます。

混迷する時代の流れの中で、行政の

課題は山積してはおりますが、今年度は、新市建設計画期間10年間の折り返しにあたり、合併後のまちづくりを検証し、今後の方向性を見極める重要な時期かと考えております。

政治、経済、文化と各分野にわたって、市民活動もグローバル化が進んでおります。埋もれた地域の資源を最大限に活用することにより、うるま市の魅力を全国に発信していきたいと考えております。

行政運営にはなによりも市民の参画と協力が大事であります。私が「うるま市はひとつ・市民協働のまちづくり」をキーワードに掲げた理由もそこにあります。市民が自信と誇りを持ち沖縄県の中核都市として、うるま市がさらに魅力あるまちになることを目指し、誠心誠意取り組んでいきたいと考えております。

結びになりますが、これからの市勢発展のため精一杯頑張る所存でありますので、市民並びに議員各位のご理解とご協力を賜りますようお願い申し上げます。私の所信表明とさせていただきます。

平成21年6月10日

うるま市長 島袋俊夫